

平成30年度 学校関係者評価報告書

— 平成29年度 自己点検・自己評価に対して —

学校法人 ホンダ学園
ホンダ テクニカル カレッジ 関西
平成30年7月



1. はじめに

学校法人ホンダ学園 ホンダテクニカルカレッジ関西では、文部科学省が示した「専修学校における学校評価ガイドライン」を踏まえ、学校の自己評価結果の客観性・透明性を高め、学校と密接に関係する方々の理解促進や連携協力による学校運営の改善を図ること等を目的として、学校関係者評価を実施し、その結果を本報告書にまとめました。

学校関係者評価委員の皆様から頂いたご意見やご助言を今後の学校運営に活かし、教育機関としての一層の質保証・向上を推進していきます。

2. 学校関係者評価委員会開催概要

■ 日時 第1回委員会:平成30年 6月 7日(木) 9:30~11:55

■ 場所 ホンダテクニカルカレッジ関西 1号館3F 136会議室

■ 評価委員 (敬称略)

氏名	会社	部署・役職	選任区分
太田 康	八千代工業株式会社	常務取締役	企業関係者 (委員長)
松岡 孝	本田技研工業株式会社	日本本部 地域人事室 主事	企業関係者
辻井 茂満	株式会社 ホンダカーズ大阪	執行役員 経理部 部長	企業関係者 (卒業生)
河井 政昭	株式会社 ホンダ泉州販売	営業部 サービス課 課長	企業関係者
泰地 孝志	ホンダテクニカルカレッジ関西 後援会	会長	保護者

■ 学校側出席者

氏名	部署・役職
澤田 武美	常務理事
五月女 浩	校長
寺尾 典篤	教務部 部長 兼 一級自動車整備研究科 科長
白石 拓三	自動車整備科 科長
本多 章浩	教頭 兼 学務室 室長 (事務局)

3. 委員会次第

■第1回委員会

- ・挨拶
- ・H30年度方針
- ・募集状況
- ・就職状況
- ・休退学状況
- ・平成29年度委員提言への取組み状況

4. 実施方法とまとめ方

第1回委員会にて、平成30年度の学園方針の説明を行い、募集、就職、休退学等の状況について委員会での共有を図りました。また、委員会に先立ち、平成29年度 自己点検・自己評価報告書に対する質問・意見を委員から収集し、委員会では基準1～基準10に対する取組み状況の説明と合わせて事前質問への回答及び質疑応答、議論を行いました。

次頁以降に、学園の取組みに対する委員からのご意見も含め、自己点検・自己評価報告書の基準ごとに評価結果(委員からの意見と対応の方向性)をまとめたものを記載いたします。

5. 評価結果(委員会からの意見と対応の方向性)

基準1:教育理念・目的・育成人材像等

委員会からの意見	対応の方向性
<p>① 学校の特色をさらに強化し(難しいことではありますが)、学生の増に続けていく必要があると考えます。</p> <p>② 社会貢献活動を通じて、その喜びを実感する事を可能とする時間を設け、その意義や価値を学んで欲しい。社会貢献活動は、今後も理念体现のため、力を入れていくべきと考えます。</p> <p>③ 今期、主要項目とした5項目の内、「他校に先駆けた教育カリキュラムの進化」について現在の進捗状況を確認させて下さい。</p>	<p>① 職業訓練教育を担う専門学校として、確りとした人間性教育と実践技術教育が学園の基盤を構築すると捉えています。Hondaが運営するメーカー校として、Hondaグループの協力の下で教材、施設、要員の活用を図ることで他校にない教育を提供できると考えており、モータースポーツ、環境技術、電動化技術等の先駆けた授業や体験を構築していきます。</p> <p>② 過去より市内清掃や献血活動に参加しており、学園祭においても地域のお子様に喜んでいただくイベントを行い、活動後の達成感や継続する希望の声を学生から聞くことができます。Hondaが行っているビーチクリーン活動や植樹活動等にも参加していけるよう関連部門との連携を図っていきます。</p> <p>③ Hondaの協力を得た最新の故障診断技術やホンダカーズによる販社システムの講習会を実施しています。またHonda SENSING搭載車両を導入し、実走行を伴った体験型授業の構築を進めています。</p>

5. 評価結果(委員会からの意見と対応の方向性)

基準2: 学校運営

委員会からの意見	対応の方向性
<p>① 教職員の方々は日々努力され頑張っておられると思っております。さらに一人ひとりが学生の皆さんにとって魅力ある人になれるよう、お願い致します。</p> <p>② 業務の効率化にはいろいろな手法がありますので、導入を検討されてはいかがでしょうか。</p> <p>③ 総括されている時代の背景において、学生視点の運営が引き続き必要と考えます。</p> <p>④ 組織運営に関して、学園による教職員採用やJRが進み活性化が図られていると認識しています。今後も継続推進をお願いします。</p>	<p>① 教員の高齢化も進み、後継者の人材確保を計画的に行っています。また女性教員も確保することができ、学生にとってより学びやすい環境となってきたと考えています。新人教員はもとよりベテラン教員に対しても心理カウンセラーによる講習会を行い、現代の若者を理解し指導する術を高めています。</p> <p>② 学園の様な小さな組織でも、仕事が人についていたり、過去からのやり方に捕らわれることによる不効率業務は多く存在します。業務プロセスの可視化とそれによる改善の実践は大変有効と考えており、検討して行きます。</p> <p>③ 学生及び社会の価値観は大きく変化していると捉えています。昔の様な職人育成型教育は通用しません。楽しくかつ実益のある教育をいかに効率よく一人一人に提供できるのかが問われています。IT機材を使った教育の効率化も一つのソリューションになると考え導入を検討しています。</p> <p>④ 現在の若者への対応、新技術教育、後継者の人材確保の観点から若い人材の継続的な確保は必須であり、継続的な教職員採用を行っていきます。</p>

5. 評価結果(委員会からの意見と対応の方向性)

基準3:教育活動

委員会からの意見	対応の方向性
<p>① 学生に学ぶことが楽しいと思わせられるように、教員の方々に対するコミュニケーション能力向上研修(コーチング)などを検討してみたいかがでしょうか。</p> <p>② 基礎学力の低下の本質に引続き対応することで、中長期的な改善を実現すべきと考えます。</p> <p>③ 関東校との協力による国家試験合格率向上のプロジェクトの取組は高く評価します。前期に取組んだ結果を分析し更なる合格率向上に取組んで下さい。</p>	<p>① 学生の価値観が変化していく環境下で、どのように学生の意欲を高めていくかは非常に重要です。コーチングをはじめとした色々な手段は有効だと思われるので、検討し導入を図っていききたいと思います。</p> <p>② 学力レベルは依然として低下傾向にありますが、志を持って入学された学生に対して出来る限りのサポートは継続して実施していきます。今後はゆとり教育から改善された学習内容で学んできた学生へシフトしていきますが、引き続きASFを主体とし、更に個に焦点をあてた体制作りを強化していきたいと考えています。</p> <p>③ 何とか100%合格を維持している状況であると分析しています。年間の計画に対して、PDCAをしっかりとまわして課題や対応を強化していかなければと思っています。関東校との協同を更に強化し、お互いに切磋琢磨しながら今後も100%合格を目指して取り組んでいきます。</p>

5. 評価結果(委員会からの意見と対応の方向性)

基準4:教育成果

委員会からの意見	対応の方向性
<p>① 一級合格率向上にあたっては、2年前に出題傾向が変わった事を踏まえた、学園としての対策(教員による問題作成)を実施し、合格率向上に努めて下さい。</p> <p>② 教員の一級資格取得の推進もお願いします。</p> <p>③ 一級整備士の資格取得目標100%に対し、合格率57.1%と乖離があります。一般の取得率からしても就労環境での取得は困難な状況であり、学生環境での取得が望ましいため、出題傾向の変化にも対応出来る指導推進をお願いします。</p>	<p>① 一級資格試験が2年前に変化し、担当ベースでその対応を進めてまいりましたが、今回も思うような結果が出ませんでした。基礎力を含め応用力育成も課題となっており、カリキュラム改善についても検討を始めています。平成30年度の取り組みとして他校の取組み分析をはじめ、ご意見にありますように試験対策問題の再構築など強化を図る対応としています。</p> <p>② 教員の一級資格取得については、新任者も増えた事もあり強化施策として実施してまいります。</p> <p>③ 今回の一級資格における筆記試験の全国合格率は23%でした。昨年度に続いて低い合格率ではありましたが、整備士養成施設として100%合格はあるべき姿であります。ご指摘の通り就労環境下での取得は困難な状況であり、大阪受験においても数名となっています。また益々自動車は安全機構を筆頭に電子制御化が顕著であり、それに対応するスキルが望まれます。このような状況を踏まえ受験された学生全員が合格出来るようにカリキュラムの見直しも含め対応を図っていきます。</p>

5. 評価結果(委員会からの意見と対応の方向性)

基準5:学生支援

委員会からの意見	対応の方向性
① 今期より留学生が増加しましたが、外国人職員採用の推進状況、また採用に際して課題があれば教えてください。	① 外国人職員についてはH29年度に募集を行ない、H30.4.1付でベトナム人女性を1名採用しました。採用した外国人職員には、留学生の募集活動と合わせて、留学生の学生サポートを担当していただいています。

基準6:教育環境

委員会からの意見	対応の方向性
特にご意見はありませんでした	

5. 評価結果(委員会からの意見と対応の方向性)

基準7: 学生募集と受け入れ

委員会からの意見	対応の方向性
<p>① 学生の応募者増施策に決定打はなく、地道な活動の積み重ねだと思えます。引き続き、いろいろなアイデアを出し試してみてください。</p> <p>② 学生に認知されるために行なっている施策それぞれの成果分析を専門性の高い部門・企画と連携すると良いと考えます。</p> <p>③ 前期新設の「AO入試」、「留学生科」については、成果がでたと認識していますが、今後の取組(課題等)を教えてください。</p>	<p>① 学園としては、施策を検討し随時実行してきていますが、仰られる通り地道な活動の積み重ねしかありません。今後も、多角的に検討して、より多くの学生に興味を持って入学してもらえるように努めていきます。各企業様からの学生紹介もひとつの施策としておりますので、引き続きのご協力をお願い致します。</p> <p>② 成果分析は簡易的には行なっているものの、施策の関連性などで一概に有効性の判断ができず、費用対効果の詳細検証などは行なえていません。成果分析については、必要なデータ収集が関係してくるため、分析ロジックを検討し、より詳細に行なえるよう、データ収集から分析に至るプロセスの構築を進めていきます。</p> <p>③ 自動車整備科と一級自動車整備研究科の2学科の入試において、AOで受験された合格者は約半数であり、入試としては多く活用されたと捉えています。留学生科については、OCへの参加は前年比で約7倍の留学生に来校いただきました。入試では、60名の受験生に対して、34名の合格としました。今後も継続して多くの留学生に受験してもらえるよう、日本語学校へのPRを強化しています。</p>

5. 評価結果(委員会からの意見と対応の方向性)

基準8:財務

委員会からの意見	対応の方向性
特に意見はありませんでした	

基準9:法令等の遵守

委員会からの意見	対応の方向性
<p>① 学園関連の法令をどの様に捉えているのですか。</p> <p>② 個人情報の取扱いとして、電子メモリの管理体制が構築されていることを確認出来ました。電子メモリについては定期的な棚卸、返却時のデータ消去の確認等を定例化するようお願いします。</p>	<p>① 文部科学省管轄の「専修学校設置基準」と国土交通省管轄の「自動車整備士養成の第一種養成施設「指定基準」」を厳正に遵守した学校運営を行っています。また本田技研工業の事業運営に対する監査、及び学校関係者評価委員会での評価等を受けることにより法令遵守の監視体制を構築しております。</p> <p>② 電子メモリについては管理者を決めて管理していくと共に、使用者同士のチェック習慣を構築していきます。また新たな持ち込みに対する意識低下防止のために、年度末の機密強化期間等に合わせ、運用状況を検査／共有する活動をしていきます。</p>

5. 評価結果(委員会からの意見と対応の方向性)

基準10:社会貢献

委員会からの意見	対応の方向性
① 引き続き、自発的なボランティア活動への取組みをお願いします。学校の魅力度向上に必ず繋がると考えます。	① 市内清掃は寮の行事に加え、新入生のオリエンテーションの中でも行い、献血活動も継続しています。小さくてもボランティアの経験は心に残り、以降の機会での参加動機になると考えます。困っている人への手助けなどの善行表彰、校内の3Sや防災に対する改善提案活動を強化し学生と教職員の意識向上を図ります。

6. まとめ

学校関係者評価委員会において、学園の重点目標、平成29年度自己点検・自己評価報告書の基準1～基準10について客観的に確認して頂き、学校運営の状況を評価していただきました。

委員会からの意見として、多角的な観点から多くのご意見をいただきました。これらのご助言を活かして学園の魅力をさらに向上し、教育機関としての高みを目指すことで、社会的な課題である自動車整備士の人材確保に貢献していきます。